

SDGsのバイブル「SDG Compass」の誕生について

(SDGsを経営にどう活用するかについてのバイブル)

1. SDG Compassとは

SDG Compass:「SDGsの企業行動指針」(SDGsを企業はどう活用するか)とは、GRI、UNGCおよびWBCSDの発行物であり、2016年3月に作成された英語版を日本語化したものであります。

(https://pub.iges.or.jp/system/files/publication_documents/pub/policyreport/5102/SDC_COMPASS_Jpn_0318_30P.pdf)

では、GRI、WBCSDおよびUNGCとは一体どのような組織なのでしょうか？。それぞれについて理解すると、SDGsの全貌が見えて参りますので調べて見ましょう。

(1)GRIとは

GRIとはGlobal Reporting Initiativeの略で、民間企業、政府機関、その他の組織におけるサステナビリティ報告書への理解促進とその作成をサポートするNGOです。気候変動や人権その他の幅広いテーマを取り扱っています。GRIガイドラインの初版は、報告書を作成する企業、NGO、コンサルタント、監査法人、機関投資家、労働組合、学者等が世界から集まって2000年に作成されました。2013年に出版された第4版は広く普及し、日本においても日本語の無料版が2014年に発行されウェブサイトにて公開されています。2016年には、新板の「GRIスタンダード」が発表されています。

近年では報告書作成のためのガイドラインのみならず、報告書作成の前段階から、作成された報告書へのアクセス、その活用方法に至るまで、より広範囲でのサポートツールを発表する等、報告書の質と信頼性を高めることを目的に多様な支援を展開しています。

GRIのホームページ <https://www.globalreporting.org/Pages/default.aspx>

(2)UNGCとは

UNGCとはThe United Nations Global Compact略で、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。

UNGCに署名する企業・団体は、人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、そして腐敗の防止に関わる10の原則に賛同する企業トップ自らのコミットメントのもとに、その実現に向けて努力を継続しています。

UNGCのホームページ <http://www.ungc.org/gc/>

(3)WBCSDとは

WBCSDとはWorld Business Council for Sustainable Developmentの略で、日本語に訳すと「持続可能な開発のための世界経済人会議」です。

WBCSDは、持続可能な開発を目指す企業約200社のCEO連合体で、企業が持続可能な社会への移行に貢献

するために協働しています。参加企業は、政府やNGO、国際機関と協力し、持続可能な発展に関する課題への取り組みや経験を共有。現在、参加企業は約35カ国にまで広がっています。本部はスイス・ジュネーブ。

歴史的背景

WBCSDの前身は、1990年に発足したBCSD(Business Council for Sustainable Development)。これは、1992年にリオデジャネイロで開催された地球サミットに向け、48人の経済人が集まったもの。第1回会議は1991年4月にオランダ・ハーグで行われ、1992年には「Eco-efficiency」という用語を提唱しました。BCSDは1995年1月、別の団体であったWICE(World Industry Council for the Environment)と合併し、WBCSDとなりました。

参加企業について

現在(2017年4月6日時点)の参加企業の地域別構成割合は、欧州48%、北米19%、アジア・オセアニア(日本除く)14%、日本9%、中南米7%、アフリカ2%、中東1%、参加企業には、3M、アクセンチュア、Acer、アップル、アクゾノーベル、アルセロール・ミタル、BASF、バイエル、ブルームバーグ、BMWグループ、ボストン・コンサルティング・グループ(BCG)、BP、ブリジストン、プリティッシュ・テレコム、キヤノン、カーギル、中国石油天然気集団(CNPC)、中国石油化工集団(シノペック)、CLP(中華電力)、コカ・コーラ、ダイムラー、ダノン、ドイツ銀行、ディアジオ、ダウ、DSM、デュポン、eni、EY、ロシュ、フォード、富士通、ハイネケン、ヘンケル、日立製作所、本田技研工業、イケア、インフォシス、JPモルガン・チェース、ケロッグ、ケリング、小松製作所、KPMG、ミシュラン、三菱ケミカルホールディングス、三菱商事、モンサント、ネスレ、ノバルティス、オーラム・インターナショナル、ペプシコ、フィリップ・モリス、ピレリ、P&G、PwC、ラボバンク、リライアンス・インダストリーズ、ルノー日産グループ、ロイヤル・ダッチ・シェル、フィリップス、サンゴバン、セールスフォース、サンタンデール銀行、シュナイダーエレクトリック、シーメンス、ソルベイ、損害保険ジャパン日本興亜、スタイル、住友化学、住友林業、太平洋セメント、タタ・グループ、東芝、トタル、東洋ゴム工業、トヨタ自動車、ユニリーバ、UPS、ヴェオリア、フォルクスワーゲン、ウォルマート、横浜ゴム等があります。

WBCSDのホームページ <https://www.wbcsd.org/>

2.SDG Compassを関連付ける活発なセミナー活動

本日、国際大学グローバル・コミュニケーション・センターにおいて、持続可能な発展と企業 ～SDGsを経営にどう活用するか～【研究ワークショップ】が開催されました。ニューヨーク国連本部は、2015年9月、150を超える加盟国首脳に参加のもと、人間、地球および繁栄のための行動計画として「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」を割いて駆使、17の目標からなる「持続可能な開発目標(SDGs)」を定義しました。日本国内においても、企業がその社会的責任を果たし、価値創出を導くための指標として注目を集めています。本セッションでは、SDGsを企業経営の中長期戦略ビジョンへと組み込み、さまざまな事業活動および企業の社会インパクト創出へと活用している事例を共有し、さらに、SDGsの取り組み意義を考えるとともに、企業にとってステークホルダーは誰であるのか、世界共通の指標がもたらす効用について議論を深めていきますという事で、大手企業のCSV推進室の方々やグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンの事務局長等が中心となり開催されました。

以上